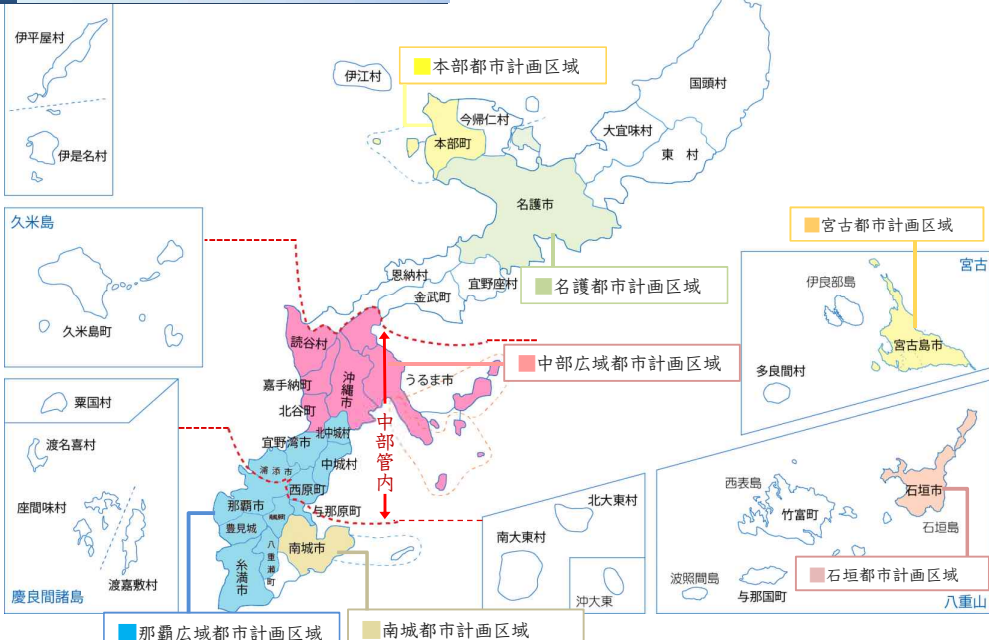


# 都市計画・景観

都市の健全な発展と秩序ある整備を図り、県土の均衡ある発展と公共の福祉の増進に寄与します

## 都市計画マップ



※那覇広域都市計画区域には市街化区域と市街化調整区域が適用されています。

## 都市計画区域の市町村現状

管内における都市計画区域は、那覇広域都市計画区域に2市1町2村、中部広域都市計画区域に2市2町1村が指定されています。都市計画区域の面積は、約28,326haで、これは県全体の約12.4%にあたります。また、都市計画区域の人口は約64.2万人で県人口の約43%を占めています。

(令和5年5月1日現在)

都市計画区域名	都市名	都市計画区域の現況		都市計画区域決定状況		備考
		面積 (ha)	人口 (人)	法適用年月日	最終決定年月日	
那覇広域	浦添市	1,944	115,360	S40.3.16	H22.8.10	行政区域で指定
	宜野湾市	1,980	99,857	S37.7.3	//	//
	北中城村	1,154	18,144	S47.4.11	//	//
	中城村	1,553	22,648	//	//	//
	西原町	1,590	35,226	//	//	//
	小計	8,221	291,235	-	-	-
中部広域	沖縄市	4,972	141,860	S31.3.23	S19.3.30	行政区域で指定 合併前の旧行政区域で指定
	うるま市	8,702	126,284	S40.6.25	//	//
	読谷村	3,528	41,567	S47.5.12	//	行政区域で指定
	嘉手納町	1,512	13,134	//	//	//
	北谷町	1,391	28,413	//	//	//
小計	20,105	351,258	-	-	-	
中部計 (2区域)		28,326	642,493	-	-	-

・面積/国土交通省国土地理院、「令和5年全国都道府県市区町村別面積調査」令和5年1月1日  
 ・人口/沖縄県企画部統計課、「市町村別人口総数及び世帯数」令和5年5月1日

## 街路

街路は、国土構造、都市構造の骨格を形づくるとともに、日常生活及び産業活動のための交通施設として重要な役割を果たしております。

また、上下水道、電気、ガスなどの公共・公益施設の収容、通風採光など環境条件の確保、災害時は避難路及び防火帯になるなど生活空間、防災空間として多様な機能をもっております。

## 都市計画街路事業箇所一覧表

令和5年度は5路線で事業継続。

都市計画区域	路線名	全体計画		事業認可期間
		延長 (km)	幅員 (m)	
那覇広域都市計画	パイプライン線	1.83	16.0	平成14年度～令和9年度
	城間前田線(安波茶工区)	0.80	32.0	平成26年度～令和8年度
	城間前田線(前田工区)	0.70	34.0	平成23年度～令和9年度
中部広域都市計画	県道153号線	0.36	17.0	平成26年度～令和8年度
	胡屋泡瀬線	3.10	32.0	平成17年度～令和5年度
	県道24号線バイパス	1.72	32.0	平成15年度～令和7年度

## 街路事業実施路線図



都市計画

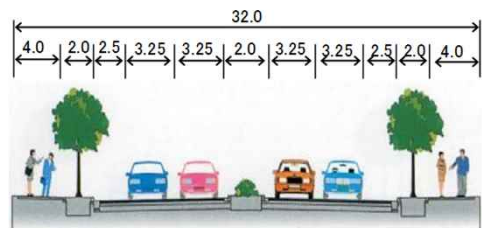
都市計画

20 胡屋泡瀬線【沖縄市上地～大里】



胡屋泡瀬線は、沖縄市の中心市街地と東部地域を結び、国道330号、国道329号等の主要幹線道路と接続する重要な道路で、交通量が多く慢性的な交通渋滞を生じているため、4車線による整備が必要となっております。

本街路は、中部圏域の交通渋滞の解消と市街地再開発事業と連携した中心市街地活性化に資する道路として整備を行います。



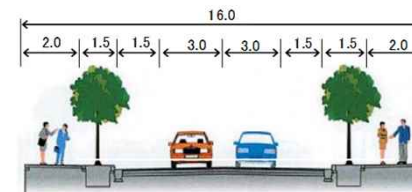
道路規格	設計速度	全体計画		着手年度
		延長	幅員	
4種1級	50km/h	3.1km	32m	H17

251 パイプライン線【浦添市伊祖～宜野湾市嘉数】



パイプライン線は、沿道に小学校が立地し、通学路となっているにも関わらず、狭隘であり歩道と車道の区別がなく、縦断勾配も起伏が激しいことから、児童をはじめ歩行者及び自動車交通の安全上支障を来しております。

当該道路の整備により、市街地における機能的な道路網を形成し、慢性的な交通渋滞を緩和して那覇市と中部都市圏とのアクセス性を向上させるとともに安全で快適な歩行空間、ゆとりある都市空間の形成を図ります。



道路規格	設計速度	全体計画		着手年度
		延長	幅員	
4種2級	40km/h	1.83km	16m	H14

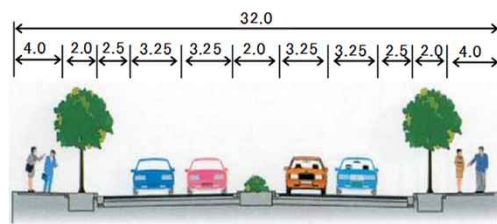
24 県道24号線バイパス【北谷町桑江～沖縄市南桃原】



現道の県道24号線は北谷町中心部から沖縄市を連結する幹線道路ですが、北谷町側の道路は起伏が激しく蛇行しており、交通量が多い上に歩車道の区別がなく、交通安全上課題が多い路線です。

そこで、増加し続ける交通量に対応するため、国道58号の北谷町役場入口交差点と沖縄市山里の沖縄環状線を結ぶ3.12kmの県道24号線バイパスが都市計画決定され、そのうち北谷町側の1.72kmを街路事業で整備します。

本街路を整備することにより、中部圏域における機能的な交通網を確立するとともに、交通渋滞を緩和し、安全で快適な道路空間の形成を図ります。



道路規格	設計速度	全体計画		着手年度
		延長	幅員	
4種1級	50km/h	1.72km	32m	H15

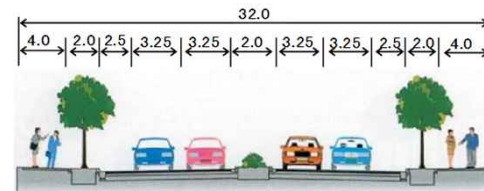
38 城間前田線【浦添市安波茶～前田】



当該路線は、浦添市と西原町を東西方向に横断する幹線道路であり、国道58号、330号、329号等の縦軸幹線を相互に連結する主要な横軸幹線道路として位置づけられております。

今回の計画道路である大平から前田については、現況交通量が2車線で処理できる交通量の2倍以上となっています。更に将来推計交通量は増加することから、4車線化の整備が必要となっております。

当該道路の沿線には、浦添警察署、浦添大公園、浦添小中学校、浦添市役所、浦添美術館などが立地しており、浦添市策定の都市計画マスタープランに浦添都市軸、シンボルロード地区として位置づけていることから、市の中心・拠点となる社会資本整備が必要であります。また、整備が進められているモルル延伸事業と接続しており、広域交通として浦添市と那覇市を結ぶ交通の要所となることから、早急な整備が必要となっております。



道路規格	設計速度	全体計画		着手年度
		延長	幅員	
4種1級	50km/h	1.5km	32～34m	H23

# 公園

都市公園は、まちの中の緑のオアシスとして、スポーツ・レクリエーションの場として私たちの生活を豊かなものにし、また、緑化や緑地の保全、災害時の避難場所を提供することなどの役割を有しております。人々が安心して快適に暮らせるまちづくりのために、都市公園の整備を進めております。

## 公園位置図・整備状況等

令和5年度の主な整備内容

- 浦添大公園・・・ふれあい憩いの広場ゾーンにおいて、大型複合遊具及び駐車場などの整備等
- 中城公園・・・自然学習・自然共生エリアにおいて、園路及び花壇などの、憩いと潤いの広場空間の整備等
- 沖縄県総合運動公園・・・スポーツゾーンにおいて、利用者の安全確保のための運動施設の改修等



浦添大公園



中城公園



沖縄県総合運動公園

## 浦添大公園



- 位置／浦添市当山、伊祖、仲間
- 種別／総合公園
- 計画面積／37.4ha
- 施設概要／浦添城跡、林間園路、遊具広場、休憩舎、展望台、駐車場



浦添城跡(復元整備中)



浦添大公園は、浦添市の中央丘陵地に位置し都市近郊地域では、数少ない自然景観を有する総合公園です。浦添城跡や浦添ようどれを中心とした史跡公園、地域住民のレクリエーション利用のためのピクニック園地、さらに中南部の連担市街地における拠点的な都市環境緑地としての整備を図っております。

## 中城公園



- 位置／北中城村(大城・萩堂) 中城村(添石・伊舎堂・登又・泊・久場)
- 種別／広域公園
- 計画面積／98.8ha
- 施設概要／中城城跡 遊具広場 園路 駐車場 キャンプ場 ゲートボール場



「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の登録を記念した石碑

中城公園は、中城村、北中城村の両村にまたがり、歴史的、文化的環境を保持し、東に太平洋、西に東シナ海を臨む景勝の地です。本公園の中心をなす中城城跡は去る大戦の戦禍をまぬがれた貴重な文化遺産であり、昭和47年に国の史跡に指定され、平成12年には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」のひとつとして世界遺産に登録されております。このような特性を生かし、中城城跡を核とした沖縄の歴史、文化、自然を積極的に体験、学習できる公園として整備を進めております。

## 沖縄県総合運動公園



- 位置／沖縄市比屋根・北中城村渡り
- 種別／広域公園
- 計画面積／70.4ha(沖縄市47.7ha 北中城村22.7ha)
- 施設概要／陸上競技場・サッカーラグビー場・テニスコート・水泳プール・体育館・修景池・管理事務所・レストハウス・オートキャンプ場・多目的広場・レクリエーションドーム・冒険広場・森の遊園地・サイクルセンター・駐車場 レクリエーションプール

1万席以上の観客席を持つJ2規格サッカー場に改修した陸上競技場



沖縄県総合運動公園は、昭和62年に開催された第42回国民体育大会(海邦国体)のメイン会場として計画され、スポーツゾーン、海浜ゾーン、森と水のゾーンで構成された、週末型屋外レクリエーション需要に対応できる公園です。

日本陸上競技連盟公認の陸上競技場などの多くの運動競技施設を備え、海洋性亜熱帯気候の「緑」と「太陽」が享受でき、年間を通じて県民の憩いの場となるような公園の整備を基本方針としております。

# 景観

地域の歴史、自然環境及び社会環境等に配慮して景観検討され、地域全体と調和するよう整備された社会資本のある空間は、地域の魅力と価値を向上させ、住民や来訪者に精神的な豊かさをもたらすとともに、後世に引き継がれる大きな資産となります。

## 景観行政団体(景観法第7条)

景観行政団体とは、景観法により定義される景観行政を司る地方自治体です。管内では、4市2町3村が景観行政団体へ移行されております。

## 景観重要公共施設(景観法第8条)

景観法では、公共施設とその周辺の建築物等が一体となる良好な景観形成を進めることを可能とするため、景観行政団体が、景観計画区域における重要な公共施設を「景観重要公共施設」とし、景観計画の整備に関する事項等を定めることができます。

沖縄県が管理する公共施設で、管内においては、県道浦添西原線(浦添市)、県道16号線(うるま市)が景観重要公共施設として指定されております。(R3.4.時点)



県道20号線イメージ図  
(沖縄市 くすの木通り地区)

浦添西原線イメージ図



景観地区(県道浦添西原線沿線地区)前田駅周辺

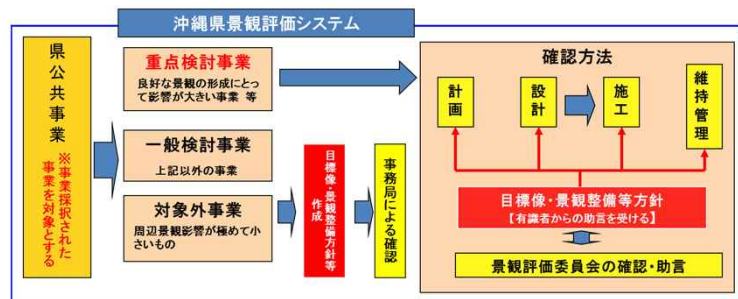


(安波茶交差点周辺)

## 沖縄県景観評価システム

沖縄県景観評価システムは、公共事業におけるライフサイクル全体をとおして景観評価を行うことにより、景観に配慮された良質な公共空間を創出することを目的としております。

管内においても、条件に合致する事業に対して重点検討を行う予定としております。



# 河川

災害の防止、流水の正常な機能保持と親しみのもてる水辺環境の整備を行います

二級河川 9水系12河川(51水系 75河川)  
準用河川 3水系5河川(13水系 21河川)  
※()は、県全体

## 管内の河川概要

管内には県知事管理の2級河川が9水系12河川、市町村管理の準用河川が3水系5河川あります。沖縄の河川は、その地形的条件として河川延長が短く、急勾配になっており流域面積が小さいことがあげられます。

河川を整備するにあたっては、洪水による災害発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の保持を図るとともに、親しみの持てる水辺環境に配慮して、令和5年度は、4水系6河川で事業継続し整備を進めています。

## 比謝川



沖縄市の都市緑化整備事業と一体となり、平成14年度～平成20年度に掛けて整備された水辺プラザ。



平成24年に2級河川の指定を受けた国道330号より上流部の未整備箇所。

比謝川は、沖縄市と嘉手納町を流れる流域面積50.9km<sup>2</sup>、流路延長15.9Kmの県下最長の2級河川です。当該河川では、流域内の都市化の進展に伴い浸水被害が多発していたことから、流下能力向上のため、与那原川合流地点から国道330号までの約7.3kmの区間において、河道掘削、護岸整備を推進しております。

国道330号付近では、沖縄市の都市緑化整備事業と連携し、河川と公園を一体的に整備することにより、水と緑の潤いのある空間として水辺プラザ(ギークグスク公園)を創出しており、地域の交流拠点となっております。

当該河川においては、米軍基地内の整備が滞っている状況にあることから、早期に整備に着手できるよう米軍との調整を進めています。

現在、沖縄市越來地内のかやま橋からせいしじや橋までの区間の整備を推進するとともに、平成24年度に2級河川に指定した国道330号より上流部約1.4km及び平成30年度に整備計画に追加した与那原川合流地点より下流部約1.5kmの整備についても国や地元の自治体、自治会などの協力を得て、事業の進捗を図ります。

事業期間: 昭和54年度～令和5年度

整備内容: 護岸工 L=10,100m

総事業費: 約228億円

## 小波津川

整備済み箇所



小波津川は、西原町を流れる流域面積3.8k㎡、流路延長4.4kmの2級河川です。

当該河川では、周辺の都市化に伴う河川への流入量増加や現況の流下能力の不足が相まって、集中豪雨による洪水被害が頻発していることから、河口から佐明橋までの約3.8kmの区間において、河川改修を推進しております。

現在、国道329号の小波津川橋から西原町役場付近までの区間を整備しています。令和5年度頃の整備完了を目指しており、その後は町役場より上流の整備を進めていきます。

事業期間：平成15年度～令和10年度  
整備内容：護岸工 L=3,800m  
総事業費：約85億円

小波津川川づくり協議会の様子



小波津川川づくり協議会は、地域住民を中心とし、有識者、西原町、沖縄県などで構成された沖縄県初の住民参加型の川づくりを行う団体です。

未整備箇所



## 天願川【うるま市】

整備済み



天願川は、うるま市を流れる流域面積30.9k㎡、流路延長10.7kmの県内では比較的大きな2級河川です。

当該河川では、河川断面が狭小により浸水被害が多発していることから、河口から国道329号上流付近までの約6.5kmの区間において、整備を推進しております。

平成22年2月に米軍のキャンプコートニー内の米軍用地の返還承認があったことから、現在、当該地の護岸整備を推進しております。

事業期間：昭和47年度～令和12年度  
整備内容：護岸工 L=6,515m  
総事業費：約149億円

## 白比川【北谷町】

未整備箇所



白比川は、北谷町を流れる流域面積8.3k㎡、流路延長3.0kmの2級河川です。

当該河川は、河川断面が狭小なため、浸水被害が多発していることから、国道58号の白比橋から大村橋までの約1.0kmの区間を整備することとしていますが、河川の大部分が米軍基地内に位置しているため、整備が遅れている状況です。

令和2年3月に河川部分を含むキャンプ瑞慶覧の一部が返還されており、現在は沖縄防衛局が支障除去措置を行っております。支障除去措置が完了次第、下流側から護岸の整備を進めていきます。

事業期間：平成13年度～令和8年度  
整備内容：護岸工 L=1,000m  
総事業費：約29億円

## 与那原川【沖縄市 比謝川水系】

未整備箇所



与那原川は、比謝川の支川で、沖縄市を流れる流路延長6.4kmの2級河川です。

当該河川は、河川断面が狭小なため、台風時の集中豪雨により、たびたび浸水被害が発生していることから、比謝川合流地点から上流約2.5kmまでの区間を整備することとしておりますが、下流部が米軍基地内に位置しているため、整備の進捗が遅れている状況です。

現在、軍用地の返還について、関係機関と協議を行っているところであり、早期の整備の実施を目指します。

事業期間：平成5年度～令和5年度  
整備内容：護岸工 L=2,520m  
総事業費：約12億円

## 川崎川【うるま市 天願川水系】

未整備箇所



川崎川は、天願川の支流で、うるま市を流れる流路延長3.8kmの2級河川です。

当該河川は、河川断面が狭小なため、台風時の集中豪雨により、たびたび浸水被害が発生していることから、天願川合流点から川崎橋までの約0.6kmの区間と国道329号ボックスカルバートから元川橋までの約0.5kmの区間において、整備を推進します。

現在、天願川合流点から川崎橋までの整備に向けて、必要な用地取得を鋭意行っているところです。

事業期間：平成24年度～令和8年度  
整備内容：護岸工 L=1,100m  
総事業費：約14億円